通巻第22号

日本リハ医学会近畿地方会Newsletter

平成27年度 第1号
2015年7月15日発行

近畿地方会ホームページ
www.kinkireh.com

日本リハビリテーション医学会　近畿地方会事務局
大阪医科大学　総合医学講座 リハビリテーション医学教室　佐浦 隆一

お問合せ先
〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町93番地 KRP6号館3F
有限会社 セクレタリアット内 近畿地方会事務局
TEL：075-315-8472　FAX：075-315-8472　E-mail：office@kinkireh.com

新専門医制度について

大阪行岡医療大学　大澤　傑

専門医制度は平成26年5月に従来の日本専門医制度評価・認定機構から、日本専門医機構（以下機構）にかわりました。今までは、各学会に専門医認定を任せていましたが、機構が専門医と研修施設を一元的に管理・認定する制度になったものです。2015年卒業の医師から適応され、2017年から実際に専門医教育が始まります。各学会は2014年7月に機構が公開した専門制度整備指針（第1版）に基づいて、「専門研修プログラム整備基準」、「モデルプログラム」を作成します。これらが機構に承認されれば、そのモデルに従って各地の専門研修施設群が独自に策定した専門研修プログラムを機構に提出し、審査を受けることになります。

第3者機関が専門医を一元的に認定することになった最大の原因は各学会の認定していた専門医の基準がバラバラであり、国民の信頼を得ていなかったことです。そこで、機構では専門医をいわゆるスーパードクターではなく、「患者から信頼される標準的な医療を提供できる医師」と定義し、専門医が持つべき共通の能力、資質を明確にし、質の向上と標準化を図り、各診療領域において備えるべき専門的診断能力を明確に示すことによって、専門性が保証される制度そのものを標準化しようと目指しています。専門医の認定、専門医研修施設の認定、専門医の更新はすべて機構の業務となり、いままで本システムで財政的に潤っていた学会は予算面で問題が生じる可能性があります。

さて、施設群に関しては単一の専門研修基幹施設と複数の専門研修連携施設から専門研修施設群が構成されます。基本診療領域は「総合診療」を含め19領域としており、すべての領域で研修施設群を構成する必要があります。基幹施設は初期臨床研修の基幹型臨床研修病院であることが必須となっています。専門医の教育には医師としての人格の涵養、患者中心の診療、リサーチマインドの修得などを目的としており、大学病院を含む研修病院群を構築する必要があるとされ、大学院をその研修期間に含めることも可能となっています。そのため、大学病院を基幹施設として研修施設群を構成することが実際的であると思われます。整形外科学会では大学病院を基幹施設とする研修施設群を策定すると聞いています。大学病院を専門研修連携施設とすることも可能ですので、リハビリテーション医学会は、研修施設群を地域の大病院（県立中央病院など）を基幹施設とすることを認めています。

我々が直接関係する専門医の更新には講習会などの受講は1時間を1単位とし、論文発表は2単位、学会発表を1単位（論文・学会は10単位まで認める）5年間に50単位を目安とするようです。また現在の指導医、専門医は2020年の経過措置期間中に機構の認定を得る必要があります。

以上簡単でありますが、現在進んでいる新しい専門医制度について概説いたしました。リハビリテーション医学会の状況についてはホームページ（http://www.jarm.or.jp/member/member_system/member_system_aboutnewsys-sp.html）に資料が掲載されています。制度について、まだ決定的でありませんことを最後に付言いたします。

CONTENTS

◆新専門医制度について 1頁
◆ネパール大地震への医療支援活動について
- 国際緊急援助隊機能拡充チームとして - 1-2頁
◆新専門医に聞く 2-6頁
◆第29回日本医学会総会2015 ..... 6-7頁
◆京都リハビリテーション医学研究会
第1回学術集会開催報告 7頁
◆第39回日本リハビリテーション医学会
近畿地方会学術集会会長挨拶 8頁
◆第39回近畿地方会開催概要 8頁
◆2015年度近畿地方会研修会カレンダー 9頁
◆編集後記 9頁

特集

ネパール大地震への医療支援活動について

- 国際緊急援助隊機能拡充チームとして -

大阪医科大学総合医学講座
リハビリテーション医学教室　冨岡　正雄

このたび、国際緊急援助隊の一員としてネパール大地震における医療支援活動をおこなってまいりましたので報告いたします。

・国際緊急援助隊について

1982年に創設された国際緊急援助隊は、30年の歴史と50回以上の海外災害派遣の実績を持ちます。被災国の要請に応じる形として、外務省から派遣命令を受けたJICAから登録メンバーに要請がかかり、発災直後に派遣されます。通常は23名の医師・看護師等が現地で、プライマリーケアを提供します。しかし近年の災害自体の大型化を踏まえ2008年から、手術・入院・透析が可能な大型チーム（機能拡充チーム）の創設が検討され訓練を行っていました。

・今回のネパールの地震について

インドプレートとユーラシアプレートが合流するネパールは地震多発地帯で、これまでも大地震が発生し多くの被害が出ています。今回の大地震は、マグニチュード7.8、ネパール政府は、死者は8000名以上、負傷者は2万人以上と発表しました。

・我々の活動について

発災は4月25日（土）でしたが、派遣要請が来たのは27日（月）の夜でした。すぐに佐浦教授に相談し許可を頂き、業務調整および2週間の派遣のための準備をして翌日に出発しました。今回は機能拡充チームとして通常の倍の46名の隊員が成田空港に集まり、バンコク経由でカトマンズに到着しました。大型の日本チームは最も被害が大きいにも関わらず、医療支援が行き届いていないカトマンズから80kmほど離れたシンドパルチョーク郡へ行ってくれ、とネパール政府からの要請がありました。46名のうち11名がまずネパール軍のヘリで現地に向かいました。活動場所は自分たちで探すのですが、街の中心部の中学校の校庭を借りることができました。翌日の5月1日から診療を開始すると、骨盤骨折、肘関節脱臼、大腿骨骨折等の外傷患者が搬送されてきました。診療をしながら、この地域の震災前後の医療機関の状況を確認しつつ、今後の活動を計画していきました。

骨折の内固定など根本的な治療が必要な傷病者は、車で3時間ほどかかる病院へ搬送を余儀なくされますが、現地で可能な処置や手術は我々が行い負担を軽減するようにしました。

そしてトラック6台分の資器材（手術機材、麻酔器、レントゲン、ベッド、生活物資など）が届き、5月5日から本格的な診療体制となりました。開放脱臼骨折の整復、幼児の軟部組織損傷に対する処置など全身麻酔が必要な手術を6例行いました。術後は入院となるため今までの派遣ではなかった「当直」も経験しまた（写真1）。またチームには理学療法士も1名いましたので、松葉杖での歩行訓練を8名の患者さんに指導してもらいました（写真2）。そして5月9日に2次隊に引き継ぎ予定どおり5月11日に帰国しました。

・今後の活動について

派遣に備えて様々な検討をしているのですが、実派遣のたびに課題が浮かび上がり、軌道修正をして次の派遣に備えることになります。外務省が管轄する国際緊急援助隊が日本国内の災害医療支援を行うことはありませんが、これらのノウハウが国内の甚大災害にも生かされると期待します。

写真1　開放骨折の術後入院患者を診察する冨岡

写真2　骨折患者に松葉杖指導を行う浅野理学療法士

新専門医に聞く

今回新しくリハ科専門医になられた先生に抱負を語っていただきました。専門領域がそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける情熱は大きく、これからの地方会を引っ張る新進気鋭の方々です。近畿地方会へのご支援を期待しております。（掲載順不同）

松岡 美保子　愛仁会リハビリテーション病院

愛仁会リハビリテーション病院（大阪府高槻市）の松岡美保子と申します。私は平成14年に自治医科大学を卒業し、大阪府に入職いたしました。大阪府立急性期総合医療センター、大阪府身体障害者福祉センター附属病院、障がい者自立センター、重症心身障害児施設「すくよか」での臨床と並行し、大阪府での医療・福祉行政にも関わって参りました。平成25年に大阪府を退職し、現職に至ります。これまでに職場内外でご指導いただきました皆様方に感謝いたします。

現在は、特に脊髄損傷リハに興味を持ち、臨床経験を積んでおります。四肢体幹の機能だけではなく、呼吸・消化器・排尿・痛み・痙縮・褥瘡予防等対応すべき点は全身に及び、精神ケアや社会制度を駆使しながらの退院、その後の長い人生、さらにロボットや再生医療等、勉強すべき内容が多く、日々楽しく取り組んでおります。未熟者ですが、今後ともよろしくお願いいたします。

近藤 正樹　京都府立医科大学附属病院リハビリテーション部　京都府立医科大学大学院神経内科学

今回、リハビリテーション科専門医に認定いただきましたので、ごあいさつさせていただきます。 私は、平成 5 年に京都府立医科大学を卒業し、神経内科に入局、認知症、高次脳機能、画像診断を中心に診療、研究に携わっておりました。 縁ありまして、 平成 21 年にリハビリテーション部で仕事をさせていただくことになりました。 その中で、患者の機能、生活能力を改善するために、リハビリテーションが、重要な役割を担っていることを実感させていただきました。 しっかりと腰をすえて、リハビリテーションを勉強したいと考え、 臨床認定医を取得し、 次いで、 今回専門医試験を受験いたしました。 これまで学んできた神経内科の経験、知識を生かして、リハビリテーション科専門医として努めていきたいと考えております。 今後とも、 ご指導ご鞭撻の程、 お願い申し上げます。

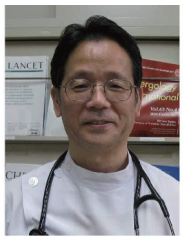
原田 理沙　神戸大学リハビリテーション部

神戸大学リハビリテーション部の原田理沙と申します。 肢体不自由児の教育に携わっていた母の影響でその医療を志し、 H18 年神戸大学卒業後同整形外科に入局、 H23 年同大学院整形外科博士課程修了後より、 酒井特命教授のご指導の下、 がん・急性期・小児など幅広く勉強させていただいております。 専門医受験時は第 2 子が 5ヶ月で育休中でしたが、 試験勉強を通し自らの診療の至らない点を再認識でき、志新たに今年度より復帰しております。 今後も研鑽を積み、 微力ながら臨床・研究両面で患者様の QOL の向上に役立てるよう、 また近年女性の割合が増加している医学生・若手医師にリハ医学の魅力を伝えていけるよう努力する所存です。 ご指導宜しくお願いいたします。

高田 俊之　兵庫県立リハビリテーション中央病院

この度リハビリテーション科専門医を取得させていただきました兵庫県立リハビリテーション中央病院の高田俊之と申します。 本院に勤務後、回復期病棟での脳疾患のリハビリテーションを中心にリハ医療に関わって参りました。 現在は内科出身なのもあって臨床業務と併せ、 患者さんたちがより効果的なリハビリテーションが行えるようリハビリテーションにおける栄養管理、 合併症管理の重要性について研究、 学会活動を行っております。 内科医としては苔の生えた人間ですが、リハ医としてはお尻にから殻のついたまま歩いている状況です。 今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

東本 有司　近畿大学医学部呼吸器アレルギー内科



みなさん初めまして。 私は普段、 呼吸器内科医として勤務しておりますが、 ここ 10 年ほどは呼吸リハビリテーションに興味をもって取り組んでおります。 とゆうことで、 中途半端はいけないと思い、 呼吸器学会専門医の上にリハ学会の専門医もとることにいたしました。 ただ、 勉強してみるとほとんどが専門外となりますので、 年齢による記憶力低下を実感しながら半年間勉強しました。 勉強する上では福田教授とリハ専門医の先輩先生（といっても二回りほど年下ですが）に大変お世話になりました。 現在は、 呼吸器科医としての診療の他、 週2回呼吸リハ外来を PT,OT, 栄養士さんと楽しくしております。 呼吸器系の国際学会には毎年 PT さんと参加しております。 先日もアメリカ呼吸器学会に若い PT と一緒に発表してきました。 リハ科専門医としてはまだまだ新米ですので、 皆様のご指導お願いいたします。

城戸 顕　奈良県立医科大学整形外科

私は奈良県立医科大学を平成2年に卒業し、 運動器疾患の診療・研究に従事して参りました。 前職の奈良県救命救急センターでは頸髄損傷・広範囲熱傷・骨盤外傷など高次外傷を担当、 平成 16 年からは奈良医大にて骨軟部腫瘍・がんの骨転移・関節リウマチと骨系統疾患の分子治療を含む薬物療法・手術療法・リハビリテーションを通し、 さまざまな障害のマネジメントに永くあたって参りました。 根治の為に一年間近い入院化学療法を要する学童・思春期の骨悪性疾患では、 精子保存・妊孕性から骨髄抑制、 広範切除・機能障害から復学（復職）支援までまさに“オンコロジー”から“リハマインド”の架け橋を果たし続ける必要があります。 向後は障害の様態もアプローチ手法もいっそう専門化・細分化が進む時代とは存じますが、「患者の側に立ち、 何にこまっているかを一番に考える」医師としてリハ科専門医の諸先輩にご指導を賜りたいと考えています。 どうかよろしくお願い致します。

山川 知之　独立行政法人国立病院機構姫路医療センター 整形外科

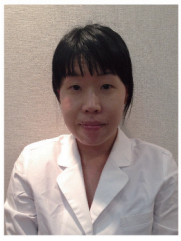
この度、リハビリテーション科専門医を取得させていただきました独立行政法人国立病院機構姫路医療センター整形外科の山川知之と申します。 平成9年卒業後、京都大学整形外科に入局、静岡県立総合病院、三菱京都病院、 京都大学大学院、 神戸市立医療センター中央市民病院、 丹後中央病院そして現病院にて研修、研究、鍛錬することで、リハビリテーションの重要性に痛感させられました。 専門医試験に合格し、ようやくリハビリテーション医療の第一歩を踏み出したと身の引き締まる思いです。 これからも、 諸先生方にご指導いただきながら研鑽を積んでいきたいと思っております。

今後とも、 相変わらずのご鞭撻を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

酒田 耕　みどりヶ丘病院 リハビリテーション科

大阪府高槻市にある祐生会みどりヶ丘病院リハビリテーション科の酒田耕です。建築の世界で5年ほど働いた後、方向転換し医師となりました。初期研修終了後、豊中市にある回復期リハビリテーション病院で4年間勤務し、この春から現在の職場で急性期、回復期両方の診療に関わっています。急性期の早期から適切なリハビリテーションを行い、とぎれなく回復期へつなげていくことが本当に大事だとあらためて感じています。それをしなければ寝たきりになっていたであろう患者さんを歩いて退院させることができるのは本当にこの仕事の醍醐味だと思います。理想は日本全国どこの病院でも適切なリハビリテーション医療が受けられることです。これからも専門医として患者さんに最善のリハビリテーションを提供できるように日々研鑽を積んで参りたいと思いますので、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

岸本 恵美理　近畿大学 リハビリテーション科



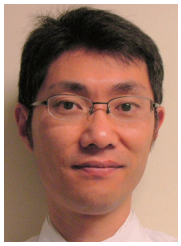
この度、リハビリテーション科専門医に認定していただきました、 岸本恵美理です。 平成 20 年に近畿大学医学部を卒業し、 徳島赤十字病院での臨床初期研修を経て、 近畿大学医学部附属病院リハビリテーション科へ入局しました。 整形外科疾患や脳血管障害、 周術期など急性期病院での多彩な症例を経験させていただきました。 ご指導いただきました先生方に感謝申し上げます。

やっと、リハビリテーション医としての第一歩を踏み出したと身の引き締まる思いであります。現在はみどりヶ丘病院で摂食嚥下や回復期について勉強させていただいております。 幅広いリハビリテーションの分野で少しでも貢献できるよう努力し、 経験を積んでいきたいと思います。 まだまだ未熟者ですが、 今後ともご指導いただけますよう、 よろしくお願い申し上げます。

三好 正浩　関西リハビリテーション病院

関西リハビリテーション病院の三好正浩と申します。 平成 13 年に三重大学を卒業し、 神経内科医として主に脳卒中の急性期医療を中心に診療に携わってまいりました。 当時から急性期では寝たきりや車いすでの生活を余儀なくされていた担当患者さんが、 回復期リハビリ病院（主に七栗サナトリウム）に転院し、 退院後に私の外来に歩いて受診される姿を多く見て、「回復期リハビリってどんなことをしているのだろう？」と強く興味を抱くようになりました。 その後神経内科専門医、 脳卒中専門医を取得後、 平成 23 年より現在の職場でリハビリ科医師として働いています。この度、リハ科専門医も取得することができました。現時点では、「脳卒中」で困っていらっしゃる患者さんの、 少しでもお役にたてるような医師を目指したいと思っています。引き続きご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

新井 隆三　京都大学整形外科



このたび、リハビリテーション科専門医の資格をいただきました、 新井隆三と申します。 バックグラウンドは整形外科です。 専門医試験の勉強をする中で、 改めてそのカバーしなければならないフィールドの広さに圧倒されました。 この多方面から寄せられる多彩な要望を整理しきれず、「ただなんとなくリハビリしてしまう」ことがないようにしなければならないと思いました。 リハビリに励もうとする患者さんのニーズをとらえ、 担当主科の治療方針を認識したうえで、 病院外での生活につながるように目的意識をはっきりとさせたトレーニング環境を構築したいと思います。

今後ともご指導のほど、 なにとぞよろしくお願い申し上げます。

川崎 拓　滋賀医科大学

この度リハビリテーション科専門医の認定をいただきました川崎と申します。 私は平成 4 年に滋賀医科大学整形外科に入局し、 その後関節外科医として人工関節（股・膝・肘）、 骨切り術、 股関節鏡などの手術から、生物学的製剤などを用いてのリウマチ性疾患の薬物治療まで担当しておりました。平成24年よりリハビリテーション部に配属となりリハビリテーション医学に取り組んでまいりましたが、 勉強すればするほど心臓リハ・嚥下リハなどリハビリテーションの奥の深さを実感させられました。 今後は専門医として滋賀県ならびに近畿地区のリハビリテーションの発展に微力を尽くしてまいりますので、 今後も引き続きご指導よろしくお願い申し上げます。

池口 良輔　京都大学整形外科

この度、 日本リハビリテーション医学会専門医の認定を頂きました池口良輔と申します。 私は平成 5 年に京都大学を卒業後、 整形外科に入局し、 手の外科、 マイクロサージャリー、 外傷外科を専門として参りました。 平成 26 年 4 月より京都大学リハビリテーション科に勤務させていただいております。 手外科とリハビリテーションとは関係の深いもので、 手術療法のみでは治療は成り立たず、リハビリテーションがあっての手術であり、 理学療法士と作業療法士の皆さんと一緒になって日々診療にあたってきました。 運動器疾患だけでなく、リハビリテーション科は対象疾患が広く、 院内では患者様が最も多く、 重要な科であることを最近では痛感しております。 今後は診療のみならず、 研究活動、 若手医師の育成とリハビリテーション医学会の発展のために少しでも貢献できるよう尽力していきたいと思っております。 今後とも御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

池田 宜史　名手病院

このたびリハビリテーション科専門医の末席に加えて頂きました、 名手病院の池田と申します。 市中病院で消化器内科医としてのキャリアを積んでおりましたが、 2007 年より地域密着型の病院で内科全般の診療を担当するようになりました。 虚弱高齢者を診る機会が圧倒的に増え、 短期の安静臥床で容易に廃用症候群に陥ってしまう現実に愕然とし悪戦苦闘する毎日でしたが、 和歌山県立医科大学リハビリテーション医学田島文博教授の「Whole body」の理念に接し、 リハビリの可能性を確信するに至りました。 以後自分なりにリハビリ医としての研鑽を積んでいる途上でありますが、 研修や専門医試験受験に際し様々な御配慮を頂きました田島教授、亀田浩司先生をはじめとした諸先生方にこの場をお借りし改めて厚く御礼申し上げます。今後とも微力ながら地域のリハビリの普及・発展に尽力していく所存ですが、 まだまだ経験も浅く若輩者ですので引き続き皆さまの御指導・御鞭撻の程どうぞ宜しくお願い致します。

池田 紗綾香　兵庫医科大学病院リハビリテーション部

この度リハビリテーション科専門医を取得させていただきました池田紗綾香と申します。 平成 22 年に兵庫医科大学リハビリテーション医学教室に入局し、 現在兵庫医科大学病院に勤務しております。 医師となり診療をしていく中で退院すればそこでゴールとなる医療に疑問を感じ、 患者さんに寄り添う医療ができるのはリハビリ科だと思い入局に至りました。

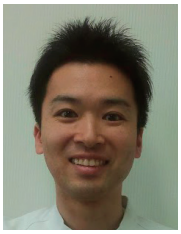
大学病院でのリハビリは急性期を中心とした脳神経疾患、 内部障害、 がん疾患をはじめ、 慢性期脳卒中の CI 療法など多岐に渡っており、 勉強不足を日々痛感させられる毎日です。 まだまだリハ医として半人前ではありますが、 諸先生方にご指導いただきながら研鑽を積んでまいりたいと思っております。

今後とも御指導、 ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

笹山 瑠美　石川病院

この度リハビリテーション科専門医の認定をいただきました笹山と申します。 平成21年に高知大学を卒業し、 地元兵庫に戻って2年間の初期研修を受けた後、リハビリテーション科を専攻しました。 大阪医科大学で2年間のレジデント研修を受け、 京都の第二岡本総合病院で1年間勤務した後、 昨年の4月から姫路市の石川病院で勤務しております。 多くの先生方に教えていただく機会に恵まれたこと、 いつもリハ医の仲間がいる環境で研修できたこと、 大変感謝しております。 また専門医試験受験に当たり、 色々とサポートしてくださった先生方、ありがとうございました。 これからも先輩方の背中を追いかけながら、日々の診療を頑張っていきたいと思います。 今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

藤本 宏明　森之宮病院



このたびリハビリテーション科専門医の認定をいただきました、森之宮病院の藤本と申します。平成17年に兵庫医科大学を卒業後、大阪大学神経内科に入局し、主に神経疾患診療に携わりました。平成24年より森之宮病院の神経リハビリテーション研究部に赴任し、回復期リハビリ病棟で主に脳卒中後リハビリ研修を行いながら、主に「姿勢バランスと大脳皮質活動との関連性」をテーマに研究させていただいています。

リハビリ医療に携われるようになり、機能予後や社会背景を考えることで視野が広がりました。患者さんやご家族の不安を和らげ、その後の生活への橋渡しになるよう、また、現在行っている研究内容を少しでも臨床へ還元できるように努力してまいります。

専門医となり、ようやく自称「神経リハ医」としての第一歩を踏み出せたことを実感しています。臨床・研究どちらも未熟ものですが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

木戸 健介　松下記念病院

このたび専門医の認定をいただきました木戸健介（きどけんすけ）と申します。平成10年に京都府立医科大学を卒業し整形外科医として勤務してきました。現在は松下記念病院で骨折の手術や、変形性関節症に対する人工関節全置換術による機能再建などの急性期治療を担当しています。しかし、以前に京都大原記念病院で回復期病棟の病棟医として3年間勤務していた事があり、整形外科症例以外にも脳血管障害症例、脳外傷症例、神経疾患症例などを担当する機会も多く、また大腿骨近位部骨折地域連携パスの立ち上げでは、急性期と回復期の立場での臨床経験をいかして参加することができました。こうした経験からリハビリテーションが担当する領域の広大さに興味を持ち日本リハビリテーション医学会に入会させていただきました。皆様には今後ともご指導ご鞭撻のほどいただけますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

第29回日本医学会総会2015関西が開催

和歌山県立医科大学リハビリテーション医学　中村　健

第29回日本医学会総会2015関西の学術講演が、4月11日（土）～4月13日（月）の3日間、国立京都国際会館をメイン会場として開催された。日本医学会総会は明治35年の第1回の開催から4年に1回開催されており、今回が29回目の開催となる。会頭を井村裕夫先生が務め、メインテーマを「医学と医療の改革を目指して－健康社会を共に生きるきずなの構築－」とし、関西2府4県でプレイベントを行うなど、関西の12医科大学/1機関/6医師会が協力し『オール関西』の体制で開催された総会となった。

開会式は、メインホールを埋め尽くす多くの参加者のもと、皇太子殿下もご臨席し行われた。開会式では、皇太子殿下のお言葉もあり、その中で「いかにより多くの人々が健康で長寿を享受できるような社会にするのかが問われています。（全お言葉は宮内庁ホームページを参照）」と述べられており、今後の医療の課題をお示し頂いた。開会式に引き続き、山中伸弥教授による開会講演「iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」が行われた。iPS細胞の現在までの研究開発成果、そして今後の医療応用を含めた展望について話され、多くの医療分野でiPS細胞の利用が実現しつつある事を力強く述べていた。

学術講演では、テーマである「医学」「医療」「きずな」に基づき『20の柱』が立案され、分野や職種を超えた横断的な100を超えるセッションが行われた。20の柱の1つに「リハビリテーションのこれから」が盛り込まれ、『リハビリテーションは進化する：「守る」から「攻める」へ』、『運動器リハビリテーションのこれから（進歩と展望）』、『新しい時代の心臓リハビリテーション：エビデンスと実際』、『有効な中枢性運動麻痺治療方法』の各テーマに関して、3日間に亘り4つのセッションが総勢座長8名演者20名で行われた。近畿地区からは、座長として大阪医科大学の佐浦隆一先生、枚方公済病院の野村隆司先生、演者として和歌山県立医科大学の田島文博先生、国立循環器病研究センターの後藤葉一先生、京都府立医科大学の久保俊一先生、京都府立医科大学の白石裕一先生、兵庫医科大学の道免和久先生（発表順）が務められ、私も演者の1人に加えて頂いた。各セッションともに盛況だったが、特に『運動器リハビリテーションのこれから（進歩と展望）』のセッションでは、会場に入りきらないくらいの聴衆が集まり、リハビリテーション医療へ

の関心の高さが感じられた。どのセッションも今後のリハビリテーション医療の展開や発展のために重要なテーマであり、どの演者の発表も新たな展開や発展を感じる興味深いものであった。

3日間に亘り開催された総会も、井村会頭より「健康社会宣言2015関西」が提言され閉会した。閉会式では、日野原重明先生の記念講演「日本における高齢化と真の健康社会」と京セラ株式会社の稲盛和夫氏の閉会講演「医学と倫理－利他の心で世のため人のために尽くすー」が行われた。日野原先生は、103歳になってなお新しい挑戦を続けており、その力強さに大変驚かされた。また、稲盛氏は医学・医療には技術や知識だけでなく、哲学が必要であり「利他の心」の重要性を示され、大変感銘を受けた。次回、30回日本医学会総会は4年後に名古屋で開催される予定である。

第1回京都リハビリテーション医学研究会学術集会 開催報告

京都府立医科大学大学院 リハビリテーション医学　三上 靖夫

平成26年にリハビリテーション医学に関する研究と教育を目的とした京都リハビリテーション医学研究会が設立されました。それまで10年間活動してきた京都リハビリテーションフォーラムを前身としています。本研究会の第1回学術集会が、久保俊一先生（京都府立医科大学大学院 教授）を会長として、平成27年2月7～8日の2日間にわたりウェスティン都ホテル京都で開催されました。

本学術集会では、テーマを「リハビリテーション医学の基本とトピックス」とし、リハビリテーション領域で日本を代表する先生方にご講演をいただきました。特別講演では日本リハビリテーション医学会理事長の水間正澄先生にご講演をいただきました。7つの記念講演、3つの教育講演、2つのランチョンセミナーでは日本リハビリテーション医学会の役員の先生方にご講演をいただきました。シンポジウムでは、近畿で活躍されている先生方に超高齢社会におけるリハビリテーションの役割について討論をしていただきました。また、ポスターセッションには、運動器のリハビリテーション、脳血管リハビリテーション、がんのリハビリテーション、摂食嚥下のリハビリテーション、内部障害のリハビリテーション、回復期・生活期のリハビリテーション、およびリハビリテーションにおける新しい試みなど幅広い領域から41演題が集まり、活発な議論がなされました。さらに、実践的なハンズオンセミナーとして「ロボットスーツHAL」および「心臓リハビリテーション心肺負荷試験（CPX）」を開催しました。初めてこれらの機器を目にされた先生も多く、実際に触れて理解を深めることができたと大変好評でした。学術集会の締めくくりに近畿地方会、および京都府リハビリテーション教育センターと連携し、「ロボットリハビリテーション」についてこの分野を代表する日本リハビリテーション医学会副理事長の才藤栄一先生、同理事の島田洋一先生にご講演をいただきました。全国から600名をこえる多くの方々のご参加をいただき、成功裏に終えることができました。ご協力いただきました先生方に心より御礼申し上げます。なお、本学術集会のプログラムは研究会のHP上でご覧になれます。 http://www.kyoto-rehabili.jp/

会場風景（開会の辞　久保俊一会長）

運営スタッフ一同

第39回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会開催にあたって

第39回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会　会長 柴田　徹
(社会医療法人大道会森之宮病院小児整形外科)

平成27年9月12日（土）に第39回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会を森之宮病院ウッディーホールにて開催いたします。リハビリテーションは人々が社会の中で健康な生活を営むことを目標としており、すべての疾患にかかわる分野です。各々の先生方はそれぞれご専門があるとは思いますが、同時に幅広い知識も要求されます。今回の学術集会および研修会が専門知識を深めるとともにさらに幅広い知識を得るきっかけになれば幸いです。

研修会では　栗本先生より「小児の高次脳機能障害」について、貴島先生には、近年の新しい治療として「髄腔内バクロフェン投与療法」について、そして当院服部先生に「安静時脳波位相解析」という基礎的なご講演をしていただきます。当日は是非多数の先生にお集まりいただき活発な討論ができることを願っております。

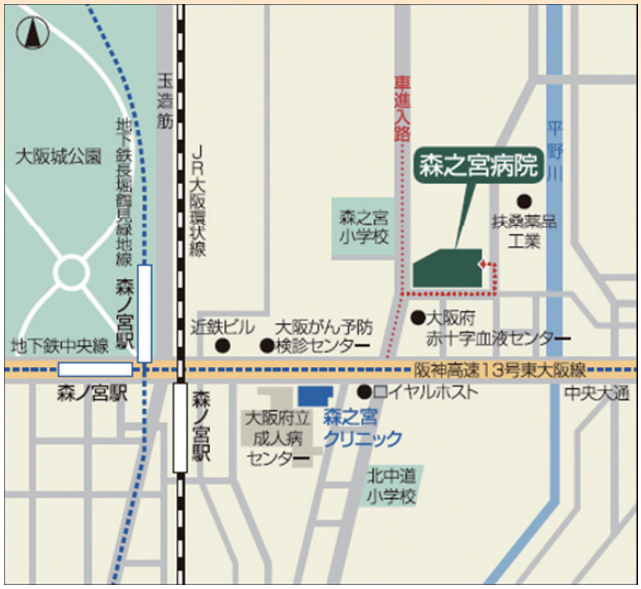
第39回日本リハビリテーション医学会近畿地方会ならびに専門医・認定臨床医生涯教育研修会

開催日時：2015年9月12(土)
13:00～18:00

会長：柴田　徹（森之宮病院小児整形外科）

会場：森之宮病院 ウッディホール

〒536-0025　大阪府大阪市城東区森之宮2―1―88
TEL：06-6969-0111（代表電話）
TEL：06-6969-8170（森之宮病院医局直通）



・JR　　JR大阪環状線「森ノ宮」駅より徒歩7分
・地下鉄　中央線「森ノ宮」駅（4番出口）より徒歩7分
　長堀鶴見緑地線「森ノ宮」駅（4番出口）より徒歩7分
※ 駐車可能台数が少ないので、できるだけ公共交通機関にてお越しください）

1. 一般演題
発表形式がMac PCの方は、必ずご自身のPCアダプターおよびコネクターをお持ちください。
Windowsの方は、PCでもUSBメモリーでも受け付け可能です。
演題申込み要領：上記地方会幹事宛に、メール（shibata@omichikai.or.jp）にて演題名、演者名、400字以内の抄録をお送りください。
受信確認の連絡を1週間以内にいたしますので、万一連絡がない場合には、地方会幹事まで電話連絡（TEL：06-6969-8170）をお願いいたします。

演題締切：2015年7月29日（水）

2. 専門医・認定臨床医生涯教育研修会（30単位）
1.「小児後天性脳損傷のリハビリテーション～高次脳機能障害を中心に～」
神奈川県総合リハビリテーションセンター小児科部長　栗原　まな　先生
2.「痙性麻痺に対するバクロフェン髄腔内投与療法」　大阪大学脳神経外科学講師　貴島　晴彦　先生
3.「安静時脳波位相解析の神経リハビリテーションへの応用」森之宮病院神経リハビリテーション研究部部長　服部　憲明　先生
認定単位：1講演10単位　参加費：2000円　受講費：30単位一括3000円　事前申込み：不要
認定臨床医受験資格要件：認定臨床医の認定に関する内規第2条第2項2号に定める指定の教育研修会（必須以外）に該当します。

お問い合わせ先：森之宮病院小児整形外科　柴田徹　電話：06-6969-8170　e-mail: shibata@omichikai.or.jp

2015年度 近畿地方会研修会カレンダー

●第55回専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日　時　2015年8月1日(土) 14:00～17:40
会　場　神戸大学医学部会館 シスメックスホール　神戸市中央区楠町7-5-2
演　題　1.「嚥下内視鏡検査のコツ」
神戸大学大学院医学研究科耳鼻咽喉頭頸部外科学分野　講師　齋藤　幹　先生
2.「人工関節手術のリハビリテーション」
大阪市立大学医学部附属病院 リハビリテーション部　講師　池渕　充彦　先生
3.「ボツリヌス毒素療法とリハビリテーション」
関西医科大学付属枚方病院 リハビリテーション科　診療教授　長谷　公隆　先生
担当幹事　酒井 良忠 (神戸大学大学院医学研究科リハビリテーション機能回復学)
※当日は平成27年度 近畿地方会 総会(16:05～16:35)もございます。

●第39回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日　時　2015年9月12日(土)　13:00～18:00
会　場　森之宮病院 ウッディホール　大阪市城東区森之宮2-1-88
演　題　1.「小児後天性脳損傷のリハビリテーション～高次脳機能障害を中心に～」
神奈川県総合リハビリテーションセンター 小児科 部長、七沢療育園 施設長、
東京慈恵会医科大学 小児科 准教授　栗原 まな　先生
2.「痙性麻痺に対するバクロフェン髄腔内投与療法」
大阪大学 脳神経外科学 講師　貴島 晴彦　先生
3.「安静時脳波位相解析の神経リハビリテーションへの応用」
森之宮病院 神経リハビリテーション研究部 部長　服部 憲明　先生
担当幹事　柴田　徹 (森之宮病院)
※一般演題締切 2015年7月29日(水)（詳細はホームページに掲載）

●第56回専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日　時 2015年10月24日(土)　15:00～18:30　　会　場 奈良県立医科大学 厳橿会館
担当幹事　降矢 芳子 (奈良リハビリテーション病院)」

●日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日　時 2015年11月7日(土) 15:30～17:30　　会　場 兵庫県民会館 9F けんみんホール
担当幹事　陳 隆明(兵庫県立リハビリテーション中央病院)
※当日は同じ会場で兵庫県リハ医会学術集会が開催されます。

●日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日　時 2015年11月15日(日) 14:00～16:00　　会　場 京都府立医大附属図書館ホール
担当幹事　武澤 信夫(京都府リハビリテーション支援センター)
※当日は同じ会場で京都地域リハビリテーション研究会が開催されます。

●日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日　時　2016年2月7日(日) 開催予定　　会　場　ウェスティン都ホテル京都
幹　事　堀井 基行 (京都府立医科大学附属病院)
※当日は同じ会場で京都リハ医学研究会学術集会が開催されます。

●第40回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日　時　2016年3月20日(日) 開催予定　　会　場　和歌山県JAビル 11F会議室
幹　事　中村　健 (和歌山県立医科大学)

編集後記

中村先生に御寄稿いただいた、近畿地方会関連の多くの先生が登壇された日本医学会総会について、リクルートドクターズマガジン（2015June通巻412号）に掲載された記事が、地方会ホームページに転載される予定です。2016年度のリハ医学会学術集会（会長：京都府立医大 久保先生）の京都での開催まで1年を切り、さらにはISPRM (The International Society of Physical and Rehabilitation Medicine) の2019年神戸開催が、兵庫医大の道免先生をはじめとした誘致活動により決定しました。ISPRMの日本開催は初めてのことです。引き続きニュースレターでも活発な活動を紹介していきたいと考えております。（広報委員会）